

成果と課題

指導と評価を一体化させるためには、

- 指導により児童生徒に育みたい力、すなわち学習目標の達成度を計り評価するために、明確な評価基準の設定が必要である。
- 上記について予め児童生徒と共通理解を図ることが、主体的に学習に向かう態度に繋がると考えられる。

そのため、絶対評価を行うための「ものさし」であるルーブリックを活用した授業改善を行い、検証した。

< 成果 >

① 明確な評価基準の作成により単元の目標に具体性ができ、日常的な授業改善にも繋がった。

- 評価をする際に、方向性がずれにくくなった。
 - ・ 明確な評価基準があるので、多人数を評価したり複数人で評価したりする際にも、ずれることが無かった。
 - ・ 目標に到達していない児童生徒が浮き彫りになり、誰でも的確な支援ができた。
- ルーブリックを意識することで日常的な形成的評価が行われ、根拠をもった授業改善が行われた。
 - ・ 児童生徒が目標を達成できるような指導の見直しを、いつでも行うことができた。
- パフォーマンス評価においても何ができていれば良いのかが具体的になり、評価業務の時間短縮に繋がった。

② 児童生徒と合意形成を図りながらルーブリックを作成することで、主体的に学習に向かう態度が育まれた。

- 児童生徒とルーブリックを作成し確認することで、双方にとって、目標がより明確に、具体的になった。
- 具体的に「何ができれば良いのか」を児童生徒が把握することは、主体的な学習に繋がった。
 - ・ 自分で目標を設定して挑戦し、届かなかった場合にも再度自分から挑戦する姿が見られた。
 - ・ 児童生徒同士でルーブリックを基に評価し合ったり、アドバイスを送り合ったりする姿が見られた。
- 教師の評価に対して、児童生徒が納得感をもって受け止めることができていた。
 - ・ 「なぜこの評価なのか」という質問が減り、自分の取組の足りない部分を自分で考えることができていた。

③ ルーブリックを作成する過程が、そのまま「授業作り」となった。

- ルーブリックを作成することで、単元計画や時間ごとの目標・活動も同時に定まっていくことが分かった。
- 授業を進めながらルーブリックの見直しや修正をすることが、そのまま日常的な授業改善に繋がった。

< 課題 >

ルーブリック作成には時間が掛かり、また信頼性・妥当性について検証を続ける必要がある。

- ルーブリックを作成する際は、指導要領の内容を細かく読み取り、他の資料も活用して児童生徒に伝わる具体的な言葉に落とし込む必要もあるので、特に最初は難しさを感じたり、時間が掛かったりすることがあった。
- 作成したルーブリックの信頼性・妥当性について、判断に迷うことがあった。
- 授業者一人に依らない継続的な検証と、改善・修正が必要である。